

JICA モンゴル事務所ニュースレター 2015年9月号

トップニュース

モンゴル工学系高等教育支援事業 ツイニング・プログラム オープニングセレモニー開催



参加学生は日本語でスピーチ

2015年9月25日、モンゴル科学技術大学(科技大)で有償資金協力「工学系高等教育支援事業」のツイニング・プログラム第一期生入学を祝して、オープニングセレモニーが盛大に開催されました。本事業は、資源依存のモンゴル経済において産業多角化を担う工学系人材の育成を目的として、2014年に始動しました。本事業の一角であるツイニング・プログラムでは、モンゴルの学生が科技大で理系基礎科目や日本語を約2年間学んだ後、本事業提携大学に留学し学位を取得する予定です。加えて、モンゴル国内ニーズに合致した工学系人材の中長期的な育成に向けて、提携大学教員等の日本人専門家による科技大の工学系カリキュラムの改善指導も予定されています。セレモニーには、教育文化科学大臣や本事業の留学先大学から教員計11名や他プログラムに属する学生を含め、数百名の方々が参加し、学生による日本語でのスピーチや合唱、新規留学生への留学承諾書付与、モンゴル科学技術大学と本事業提携大学間とのMOU締結などが行われました。こうした一連のセレモニーは複数のテレビ局でも報道され、モンゴル国内での本事業の認知度が一層深まりました。

政治・経済動向

日本経団連、モンゴル初訪問

8月25～27日にエルベグドルジ大統領の招請を受けて、日本経団連ミッション(団長:榊原会長)がモンゴルに初めて派遣され、政府要人と会談するとともに、「モンゴル日本経済フォーラム」が開催されました。日モ両国間では、本年2月にモンゴル初の経済連携協定(EPA)が署名され、両国間の貿易・投資の拡大が見込まれています。一連の会談では、モンゴル側より経済面での関係拡大への強い期待とEPA早期発効に向けたモンゴル国内法整備を急ぐ意向が表明され、経団連側からは、行政手続きの迅速化、透明性の確保等、投資・ビジネス環境の整備や本邦企業が関与するインフラプロジェクトの推進に向けた支援等の要請がありました。また、「モンゴル日本経済フォーラム」では、主要閣僚や経済界代表から昨今の経済状況、投資環境等について説明がなされ、両国経済関係の深化に向けた具体方策等について意見交換を行いました。(日本経団連 HP から一部引用)

新閣僚6名が任命されました

2015年8月に人民党所属の閣僚6名が解任されたことを受けて、9月8日に6名の新閣僚が任命されました。新閣僚は以下の通り: Ts. Oyunbaatar 副首相(人民革命党)、B. Bolor 大蔵大臣(民主党)、N. Battsereg 環境・グリーン開発・観光大臣(人民革命党)、Z. Bayanselenge 建設・都市開発大臣(人民革命党)、M. Zorigt 道路運輸大臣(民主党)、G. Bayarsaikhan 労働大臣(民主党)。Oyunbaatar 新副首相は帰国研修員であり、2012年より帰国研修員同窓会の会長を務められています。(下記「帰国研修員同窓会欄」参照)。また、Zorigt 新道路運輸大臣は元ボディ・グループ会長で実業家として知られています。

新閣僚就任に伴い関係省庁の事務方の人事異動も行われることが予想され、JICA 事業を含め関連施策の実施方針の変更の有無等、今後の動向について注視していく必要があります。

その他の主要イベント、動向等

- ・8月28日～9月2日 エルデネ人口開発・社会福祉大臣「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム(WOW!2015)出席(於:東京)
- ・9月2日～4日 エルベグドルジ大統領、プレブスレン外相等「世界反ファシスト戦争勝利70周年記念式典及び軍事パレード」出席(於:北京)
- ・9月8日～11日 サイハンビレグ首相中国公式訪問
- ・9月10日～16日 プレブスレン外相ロシア・ノルウェー公式訪問
- ・9月15日 日本大使館主催によるモンゴルメディア向け ODA プレスツアー実施
- ・9月16日～17日 欧州安全保障協力機構国会議員会議(OSCE-PA)(於:ウランバートル市)
- ・9月20日～23日 エンフボルト議長ロシア公式訪問
- ・9月21日～22日 北東アジア都市会合(於:ウランバートル市)

プロジェクトの動き

「橋梁維持管理能力向上プロジェクト」が完了



補修パイロット工事で炭素繊維シートを貼付する様子

モンゴルの橋梁(8割以上がコンクリート橋)は、技術、マンパワー不足等からこれまで維持管理がほとんどなされず、大きな課題となっていました。2013年7月から実施してきた技術協力「橋梁維持管理能力向上プロジェクト」では、これら課題に対して維持管理マニュアル、データベース等を作成するとともに、ウランバートル市が舗装打換え工事実施中の道路上にある2橋梁を対象に補修パイロット工事も実施して人材育成を行ってきました。9月16日には第3回JCCが開催され、維持管理サイクルの普及や維持管理方針の立案等の成果や今後必要な取り組みを確認しました。また、本プロジェクトで維持管理技術を習得したC/P機関の道路運輸省及びウランバートル市スタッフ12名がマスタートレーナーに認定され、本プロジェクトを締め括りました。マスタートレーナーは、将来に亘り橋梁維持管理技術の更なる普及、人材育成を推進していく役割が期待されます。

「鉱物資源セクター人材育成プロジェクト」の一環で鉱業省職員が調査を実施

現在実施中の「鉱物資源セクター人材育成プロジェクト」の一環として、2014年4月から長期研修として秋田大学大学院に留学中の鉱業省燃料政策課職員の Purevdorj Khurelkhuu さんが、8月8日から9月2日にかけてモンゴルに滞在し、同大学関係者とともにフィールド調査を行いました。同氏は主に国内の石油埋蔵量に係る研究を行っており、左記の研究を通じて得た専門知識や技術を活用し、研修終了後、引き続き国の政策立案や実施、各種開発事業の評価を担う行政官としての活躍が期待されます。

北東アジア都市会合で「ウランバートル市大気汚染対策能力強化プロジェクト・フェーズ2」を紹介



北東アジア都市会合の様子

9月21日・22日に「北東アジア都市会合」がウランバートル市にて開催されました。本会合は日本、モンゴル、韓国、中国、ロシアの5カ国の自治体によって運営されており、2015年はウランバートル市がホストを務めたものです。今年の会合のテーマは「グリーン開発」に設定され、再生可能エネルギーや水資源等の多岐にわたる分野で各自治体の取組みやモンゴルにおける援助ドナーの支援が紹介されました。JICA モンゴル事務所からは実施中の「ウランバートル市大気汚染対策能力強化プロジェクト・フェーズ2」での測定活動や大気汚染削減対策等を紹介し、自治体や他ドナーから高い関心が寄せられました。また本会合では民間企業も参加した展示会も開催され、プロジェクトチームがプロジェクト概要やこれまでの成果を展示し、多くの学生や企業関係者らが訪問しました。

「公正競争環境改善プロジェクト」R/D 署名



会談する佐藤所長(左)及びモンゴル公正競争消費者保護庁長官(右)

9月4日に技術協力「公正競争環境改善プロジェクト」のR/Dが署名されました。公正競争消費者保護庁では公正競争にかかる申告件数が30件/日に上る一方で、当局職員数は36名で審査官の能力強化が急務となっています。同プロジェクトは、同庁をC/Pとして、競争法、関連規則、ナショナル・プログラムの改正を含め、競争制限行為、市場調査に係る審査能力の強化、裁判官、中央・地方政府、事業者及び国民の競争法及び競争政策に係る知識の向上を通じ、モンゴルにおいて公正な競争環境が整備されることを目標とするものです。3年間(予定)の協力期間中、公正取引委員会からの専門家派遣や検査官・裁判官向けの本邦研修等を実施する予定です。

「PPP 能力向上プロジェクト」でセミナー、ミニワークショップを開催



PPP ファイナンスセミナー開催時の様子

PPP ファイナンスセミナー

9月8日に第5回 PPP 実務者向け啓蒙セミナー「PPP プロジェクト向けファイナンス」をウランバートル市で開催しました。当日は、各省庁職員や日モ企業関係者ら約70名の参加が得られ会場は満席となり、本テーマへの関心の高さが伺えました。ジャブハランバートル投資庁長官の冒頭挨拶では、2015年に国レベルで17件のPPP契約が締結されたものの、省庁のPPP案件選定能力が不十分で、PPP事業推進に向けて官民含め国全体でPPPスキームについて学ぶ必要性を強調されました。

エネルギー省(MOE)及び保健スポーツ省(MOHS)でのミニワークショップ

昨年来、C/Pである投資庁への指導に加え、PPP推進の関係省庁であるMOE及びMOHSでのミニワークショップを継続的に実施しています。MOHSでは2016年3月末までに24回のミニワークショップの実施を予定しており、毎回、局長級含め多くのPPP関係者が出席し活発な質疑や議論が行われています。

モンゴル初の SATREPS「家畜原虫病の疫学調査と社会実装可能な診断法の開発プロジェクト」を実施中

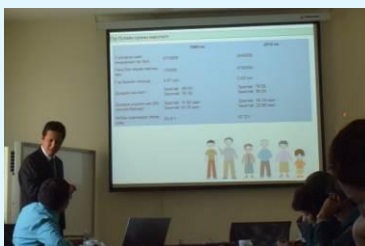


帯広で開催したプログレスセミナーの様子

9月16日、モンゴルで初となる地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)案件「家畜原虫病の疫学調査と社会実装可能な診断法の開発プロジェクト」のこれまでの成果を発表する研究プログレスセミナーが北海道帯広市で開催され、これまでの進捗状況や今後の課題等が協議されました。

同プロジェクトは、モンゴル国立農業大学獣医学研究所と帯広畜産大学の共同研究による疫学調査および簡易迅速診断法の開発を通して、獣医学研究所の家畜原虫病(トリパソーマ病、ピロプラズマ病)の早期摘発および予防・対策のための研究開発能力の向上を目指しており、昨年6月から5年間の予定で実施されています。

「社会保険実施能力強化プロジェクト」で年金ワークショップを開催



WSで発表する大西コンサルタント

9月8日に人口開発・社会保障省において年金分野のワークショップ(WS)が開催されました。モンゴルでは、2015年春国会で「年金制度改革に関する国家政策」が承認され、年金改革が急務となっています。とりわけ広大な国土に点在する遊牧民をどのように年金制度に組み込むかが大きな課題とされています。本WSは来年4月開始予定の「社会保険実施能力強化プロジェクト」の詳細計画策定調査の一環として行われ、大西評価分析コンサルタントが日本の年金制度や制度改革の歴史に関するプレゼンテーションを行いました。モンゴル側からも年金制度改革検討に当たり有意義だったと好評で、またJICA側としてもWSを通じて先方ニーズを把握できるなど、プロジェクト開始前から効果的な取り組みが実現しました。

ボランティア事業の動き

ボランティア活動紹介(丸岡隊員)



生徒と松を植樹する丸岡隊員

丸岡猛志隊員(H26年度3次隊/職種:花き栽培、任地:チョイバルサン)は2015年2月からドルノド県技術カレッジに配属され、生徒に対するビニールハウスや圃場での実技指導に加え、同カレッジが推進しているエコキャンパスづくりにも積極的に取り組んでいます。エコキャンパスづくりは本年5月から本格的に開始されていますが、同隊員がキャンパスデザインを描き、それに基づきこれまで生徒と40本の松を植え、芝生も種から育て緑豊かなキャンパスを作っています。また、同カレッジは来年度よりチョイバルサン市の緑化プロジェクトに参画予定で、同隊員の活動は校内に留まらず街全体で花を咲かせられるよう準備を進めているところです。



研修・帰国研修員同窓会

帰国研修員同窓会長 モンゴル国副首相就任



9月8日のモンゴル国臨時国会の決定により、モンゴル帰国研修員同窓会会長 Ts.Oyunbaatar 氏(現役国会議員)がモンゴル国副首相に就任しました。同氏は2012年から同窓会の会長を務めており、2014年8月に同窓会役員2名とともに本部及び札幌センターを訪問するなど、同窓会のさらなる活性化やJICA事業との連携に貢献しています。今年度は会長自らが企画しJICA研修や事業を紹介するTV番組を制作しモンゴル国内で放映するなど、Ts.Oyunbaatar氏は積極的な同窓会運営に尽力している主要な人物です。副首相就任に伴い、JICAモンゴル事務所から祝福のレターと花束を贈呈しました。

人の動き

- 9月15日 鎌倉長期専門家離任(ウランバートル市計画・実施能力改善プロジェクト)
- 9月24日 合田長期専門家着任(モンゴル・日本人材開発センター業務調整/ビジネス交流支援)
- 9月29日 JOCV H25 -2次隊4名離任(中村 哲也(UB市・コミュニティ開発)、玉井 良枝(ハラホリン・青少年活動)、横山 慧(ダルハン・体育)、武政 太(チョイバルサン・理学療法士))



独立行政法人 国際協力機構 モンゴル事務所

Bodi Tower 7th Floor, Sukhbaatar Square 3, Ulaanbaatar, Mongolia

(Central P.O.Box 682, Ulaanbaatar 211213, Mongolia)

Tel:+976-325939, 311329 Fax:+976-310845 E-mail: mg_oso_rep@jica.go.jp